

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果について

下松市教育委員会

1 調査結果の公表にあたって

平成22年度全国学力・学習状況調査（H22.4.20実施）の結果についてお知らせします。
 本調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象とし、国語、算数・数学の学力の状況や児童生徒の生活習慣、学習環境等の状況を調査するものです。
 今年度、文部科学省の方針により、全員を対象とした調査（悉皆調査）から抽出調査へと調査方法が変更となりました。本市では、児童生徒の学力や学習状況等を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善に役立てるため、抽出校はもとより、抽出対象とならなかった学校においても、希望利用方式により文部科学省から調査問題の提供を受け、市内全小・中学校で調査を実施しました。
 これまでの各小・中学校の取組により、本市の児童生徒の学力は着実に向上していますが、「基礎・基本の確実な定着」や「活用する力の育成」、「学習意欲の向上」については、引き続き重要な課題です。本市では今後も、学校と家庭・地域が連携・協働し、一体となった取組を推進していきます。



2 教科に関する調査結果について

(1) 全体の結果（下松市立全小・中学校）

★ 小学校

国語Aと国語Bの平均正答率は、いずれも全国を上回っている。
 算数Aの平均正答率は全国をやや下回ったが、算数Bの平均正答率は全国を上回っている。
 国語・算数ともに、「活用」に関する問題の平均正答率が向上し、課題の改善が見られる。
 国語A・Bと算数A・Bの平均正答率を総合すると、過去4年間で最も高い結果である。

★ 中学校

国語Aと国語Bの平均正答率は、いずれも全国を大きく上回っている。
 数学Aと数学Bの平均正答率は、いずれも全国を大きく上回っている。
 数学の「活用」に関する問題の平均正答率が向上し、課題の改善が見られる。
 国語A・Bと数学A・Bの平均正答率を総合すると、平成19年度の小学校6年生時点での調査結果と比較し、著しく向上している。

A問題は、主として「知識」に関する問題で、基礎的・基本的な知識・技能を習得しているかを問う問題です。
 B問題は、主として「活用」に関する問題で、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用できるかを問う問題です。

[参考資料] 全国と山口県の平均正答率（%）

区分	全 国		山 口 県	
	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間
国語A	83.3	83.2~83.5	83.8	83.2~84.5
国語B	77.8	77.7~78.0	79.1	78.1~80.2
算数A	74.2	74.0~74.4	74.1	73.2~74.9
算数B	49.3	49.1~49.5	50.1	49.2~51.0

区分	全 国		山 口 県	
	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間	平均正答率(推計値)	平均正答率の95%信頼区間
国語A	75.1	75.0~75.2	75.7	75.0~76.4
国語B	65.3	65.1~65.5	66.9	66.0~67.9
数学A	64.6	64.4~64.8	66.2	65.2~67.3
数学B	43.3	43.1~43.5	45.1	43.9~46.3

抽出調査への変更に伴い、文部科学省は、全国及び都道府県の平均正答率については、全員を対象とした調査（悉皆調査）を行った場合の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲（平均正答率の95%信頼区間）で表示するとともに、その中央値を平均正答率の推計値として公表しています。

(2) 各教科ごとの結果

:相当数の児童生徒ができている点

:課題のある点

小学校 国語



漢字を正しく書くこと、読むこと。
二つの言葉を組み合わせたり、一つの言葉を二つに分けたりして書くこと。
二つの意見文を比較し、共通点や相違点を書くこと。
文学的な文章に登場する人物を相互に関連付けて読むこと。
文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くこと。
目的や意図に応じて、必要な情報を関連付けて読み、理由を明確にして説明すること。

小学校 算数



整数、小数の計算をすること。
立方体を展開図から構成すること。
示された3つの円グラフから目的に合うものを選び、必要な情報を読み取ること。
数量を等分したときの1つ分を分数で表すこと。
平面上にかかれた立体図形や平面図形を基に長方形の大きさを考え、それを記述すること。
示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を記述すること。

中学校 国語



伝えるべき内容について整理して書くこと。
文脈に即して漢字を正しく読むこと。
単語の類別や働きについて理解し、同じような意味を表すように書き換えること。
語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。
記事文における表現の仕方をとらえること。
比喩的な表現で書かれた内容について理解すること。

中学校 数学



文字を用いた式の表し方に従って式を表したり、文字に数を代入して式の値を求めたりすること。
垂線の作図の手順について理解していること。
比例の関係を表す表の特徴をとらえて、 x の値に対応する y の値を求めること。
具体的な事象における一次関数の関係を式で表すこと。
筋道立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明すること。
事象を数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること。

3 生活習慣や学習環境等に関する結果について

(1) 望ましい状況

(1)、(2)とも小・中学校に共通する事柄

朝食を毎日食べること。家できちんと学校の宿題をすること。
学校で好きな授業があること。
近所の人に会ったときは、あいさつをすること。
友達との約束を守ること。学校で友達に会うのは楽しいと思うこと。
いじめはどんな理由があってもいけないと思うこと。人の気持ちが分かり、人の役に立つ人間になりたいと思うこと。

(2) 課題とみられる状況

テレビやビデオ・DVDを視聴する時間が長いこと。
家庭学習や読書の時間が短いこと。
家で自ら計画を立てて勉強したり、学校の授業の予習や復習をしたりする児童生徒の割合が低いこと。
算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えようとする児童生徒の割合が低いこと。
授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う児童生徒の割合が高いこと。

4 今後の取組について



★ 学 校

組織的取組の強化(学力向上プランの改善、学校情報の積極的発信等)
教員の授業力の向上(積極的な授業公開、校内研修の活性化等)
学習内容の充実と指導方法の工夫
(自分の考えをまとめ伝え合う学習の充実、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実、評価問題の工夫、やまぐち学習支援プログラムの活用等)

★ 家庭・地域

学習・生活習慣の改善('家庭学習の手引き'の活用、家庭生活の見直し等)
教育活動への参加(授業参観、学校評価・授業評価への協力等)

★ 下松市教育委員会

各学校の取組の検証
学力分析と情報提供
継続的な学校訪問・指導
ワークショップ型授業研究
による校内研修の充実
下松市教育研究所員による
研究授業の公開